

毎年夏に行われるアバディーン文化を紹介するイベント「タータン・デー」のパレード。後ろに見えるアバディーン市庁舎は19世紀後半に建てられた建物で、現在も市議会の議場や市役所の一部として使用されています。

世界の地域から

アバディーン市（英国）

©Aberdeen City Council

英国のアバディーン市はスコットランドの東部に位置し、グラスゴー、エディンバラに次ぐ、スコットランド第三の都市です。人口は約21万人、港湾都市としてかつては漁業や造船業、製紙業、織物産業で栄えましたが、北海油田の発見以降は石油採掘の拠点となり、石油関連産業、ハイテク産業や農業、水産業などの研究・技術開発部門が主要産業となっています。

2010年7月12日、アバディーン市庁舎において長崎市との市民友好都市提携式典が行われました。日本の近代化に貢献した英国の商人トーマス・グラバーがアバディーン出身であったことから、民間交流団体による日英の大学生の交換事業が1996年から実施されており、今回の市民友好都市提携へとつながりました。





アバディーン市庁舎とアバディーン港。市庁舎の美しい尖塔は17世紀初めに建てられ監獄として使用されていたが、市庁舎建設の際に新しい建物に組み込まれました。現在では街のランドマークとなっています。

©Aberdeen City Council



グラナイト（花崗岩）で作られた重厚で格式高い街並み。主要な建物が花崗岩で作られていることから、別名「グラナイト・シティ」とも呼ばれています。

©Aberdeen City Council



北部スコットランドの主要港であるアバディーン港。スコットランド北東に位置するオークニー諸島、シェトランド諸島へのフェリーが運航しています。



©Aberdeen City Council



©Aberdeen City Council



©Aberdeen City Council

隔年でアバディーンにおいて開催される石油、ガス関連の展示会「オフショア・ヨーロッパ」。2009年の展示会では出展社数約1,400社、来場者は約45,000人に上りました。次回は2011年9月に開催される予定です。



トーマス・グラバーが両親のために立てた家。



入口には「スコティッシュ・サムライ」のプレートが掲げられています。

グラバーハウスの庭にある、トーマス・グラバーの長崎来航150周年を記念して地元のロータリークラブによって2009年に行われた植樹。



長崎市との市民友好都市提携式典。提携式典にはアバディーン市長、田良原在エディンバラ総領事、市議会議員、今年のトーマス・グラバー奨学生、大学関係者等が参加しました。



©Aberdeen City Council

アバディーン出身の建築家マーシャル・マッケンジーによって設計されたアバディーン美術館。18世紀の絵画から現代アートまで幅広いコレクションを誇ります。

©Aberdeen City Council



キャッスルゲート。市内の中心地ユニオン通りの東端にありますが、もとはこの場所が行政および商業の中心地でした。現在はレストランなどの商業施設があります。



©Aberdeen City Council



©Aberdeen City Council

©Aberdeen City Council



©Aberdeen City Council

ダシーパークにはヨーロッパ最大級の屋内庭園であるウィンター・ガーデンやクリケット場、池、野外ステージなどがあります。

↑市の中心部にあるユニオンテラス・ガーデン。夏にはコンサートやスポーツなどのイベントが開催され、市民の憩いの場となっています。



©Aberdeen City Council

アバディーン市の北→に位置する町・ファイビーにあるファイビー城。塔は歴代の所有者であった5つの一族がそれぞれ建てたものです。



北海に面する断崖にそびえ立つダノター城。アバディーン市の南に位置する町・ストーンヘイブンにあります。

©Aberdeen City Council